# 令和３年度第３回神栖市行政経営適正化推進委員会　会議要旨

| | |
|---|---|
| 日　　時 | 令和４年１月１９日（水）　午後１時３０分～午後３時００分 |
| 場　　所 | 神栖市役所　本庁舎　第１委員会室 |
| 案　　件 | **行政経営計画の取り組みに対する提言書について** |
| 出席委員数 | ７名 |
| 傍聴者 | ０名 |

会議の要旨等

**１　開会**

**２　会長あいさつ**

**３　案件**

**行政経営計画の取り組みに対する提言書について**

**以下，提言書の集約作業において各委員から出た主な意見を掲載。**

【委員からの主な意見等】

・民間サイトである生活ガイド.comによる「茨城県の地域注目度ランキング」で,神栖市が県内４位となっている。大変嬉しく思う。神栖市は鹿島臨海工業地帯を有し先端技術を生かした製品の出荷が日本経済を支えている。また，生活面では，温暖な気候を生かした農業や漁業が盛んであること，国道沿いに商店や飲食店等が多く立地していること，地価が安いことなどが挙げられ，住みやすい地域で，今後の発展性が見込めるということが評価されている。一方，課題としては，治安の問題，交通の不便さ，教育レベルの充実，医療の充実等挙げられていた。

・提言書の冒頭について,ＳＤＧｓ：Susutainable Development Goals（持続可能な開発目標）の表現を入れるべき。市の行政にもＳＤＧｓを取り込んでいくべき。ＥＳＧ：Environmennt Social Governance（持続可能な世界の実現のために，企業の長期的成長に重視すべき３つの観点）についても同様に考えていく必要がある。

・“住みよいまちづくり”は当然ながら，ＳＤＧｓを入れ込むことにより“環境にも配慮したまちづくり”といった，より意識した提言書ができると考える。

・「戦略的な行政運営」という表現について，市独自のオリジナルティを追記されたい。

・「着実な検証」部分に,“社会との価値観を共有する，意識する”という表現を追記されたい。

・デジタル化について,デジタル化の目的と手段を明確化されたい。本来の目的である“市民の生活・利便性向上につながるもの”という表現を強調し追記されたい。

・市民サービスの向上について，もっと積極的なＰＲをしてほしい。市報やホームページで周知はしていると思うが，それではＰＲが足らない。様々な手段を使って市民に届くよ

う創意工夫を凝らし行うべき。

・シティプロモーションについて，広報戦略課の職員は市職員だけか。外部人材を登用しプロジェクトして発信してみてはいかがか。鹿嶋市では鹿島アントラーズと連携し，県北地域では，市町が連携し広域で観光事業など取り組まれている。外部人材により異なる発想を取り入れることが大事。

・ワークライフバランスの推進のなかで，「新たな課題や難しい課題に挑戦していく高い意欲が求められる。そのためには，挑戦の成果を正当に評価し～」という記述について，これでは成功したら評価するという意味合いになる。挑戦すれば必ず失敗もでてくる。トライ＆エラー，挑戦することに意義があるという表現にしないと，なんでも成果主義で本当によいのか。失敗を恐れて挑戦しない。エラーを認める人事評価制度の必要性，大手民間企業では，成果よりも失敗事例をたくさん作っていく。挑戦したことを評価し認めていかないと職員のボトムアップにならない。“結果重視ではなく，意欲を買う”ことが大事。

4　その他

5　閉会